

子供の手首にプロミスリングという願い事をかなえるヒモを見つけたのは最近のことだ。聞けば、Jリーグのヴェルディ川崎の人気選手、ラモス瑠偉が愛用しており、流行の

に「飛べ、フェニックス」と心の中で唱えること。昔、同名の映画を見たことがある。フェニックスと命名された双発で中古のプロペラ機が事故で砂漠に不時着するが、悪戦苦闘の末に無事帰還するといふストーリーだ

の細胞が眠りから目覚めて、まさに戦闘態勢に入ったような気分がするから不思議である。

この二つの「おまじない」は、いわば精神安定剤の役割をになっているようなものだが、ストレス社会にあって、ささやかな抵抗と言えなくもない。

の細胞が眠りから目覚めて、まさに戦闘態勢に入ったような気分がするから不思議である。

この二つの「おまじない」は、いわば精神安定剤の役割をになっているようなものだが、ストレス社会にあって、ささやかな抵抗と言えなくもない。

川崎の人気選手、ラモス瑠偉が愛用しており、流行のきっかけをつくっ

たとか。一本のヒモで、願ひ事がかなうならば安いものだといやミの二つを言おうとして、やっと我慢した。

実は、私にも他人に話したことがない儀式がある。その一つは飛行機に乗る時、離陸の瞬間

った。それにあやかつて、空の安全を願うわけである。

もう一つは、会社に出勤して机に座つて最初にすること。オーデコロンを少盪手に取り、鼻で香りをかいだ後、髪から首へ、そして最後に手首にすりこむのである。香りをかいだ瞬間、体

及ばない世界や自分の限界を知らされる毎日である。そこにこそ、ただ、何者かに身の一切をゆだねてしまふ“おまじない”の価値がありそうである。

かめい 亀井
そうたろう 創太郎 (亀井通彦)